



1 オープンイベントの様子。2 7月29日のオープン当日は、600名の買い物客で賑わった。3 「売り場でお客さんの顔を見ながら仕事していると落ち着く」と担当の長谷部さん。スタッフからは「商品知識の豊富さが凄い」と信頼も厚い。4 ネーミングコンクール最優秀作品に輝いた高山豊さん。5 買い物客の質問に丁寧に対応。6 四ツ小屋、仁井田、御野場、桜、上北手エリア2400戸にポスティングされたチラシ。



JA新あきた 直売センターいぶきの里



秋田市の郊外に新しい直売センター「いぶきの里」がオープンしたと聞きました。どんな特徴があるのか教えてください！



ナビゲーター
JA新あきた 営農経済部
農業ビジョン推進課 課長
小松 博俊さん

「いぶきの里」は2号店ですね！

「いぶきの里」も今はJA主体の運営ですが、いつか生産農家主体の直売センターになることを目標としています。また、ここは「彩菜館」に比べ客層が比較的若いようなので、新しい品種や珍しい野菜を置いて、若いお客様のニーズにも応えて行きたいですね。

「いぶきの里」は2号店ですね！
管内には「彩菜館」があり、おかげさまで「彩菜館」の売り上げは順調に伸びていて、生産農家で組織する運営協議会を設立し、JA主体の運営から、生産農家主体の直売センターとして自立して稼働しています。生産者が自分たちで考え、運営していますので、皆さんやる気満々で、会長を筆頭に頑張っています。

直売センター「いぶきの里」の特徴は？
7月29日にオープンした直売センター「いぶきの里」では、野菜などの商品陳列を生産者ごとではなく、種類ごとに行っています。トマトが欲しい時はトマトのコーナーに行けば、何人かの生産者が作ったトマトの中から気に入ったものを選ぶ事ができる、というようにです。そうすることで、お客様が商品を選びやすくなり、同時に、生産者が良いものを作ろうとする意欲の向上にもつながると考えました。

また、一日に4回、毎日決まった時間に、生産者の携帯電話に、出荷した商品の売り数などのデータがメールで届くシステムを採用しました。これにより生産者は売れた数を確認でき、商品を補充する目安になります。

「いぶきの里」は田んぼに囲まれた環境の良い場所にあります。店舗の隣の田んぼや、近くの畑を使って、地元の子どもたちに農業体験をしてみようなど、イベントの実施も検討しています。ここが地域の拠点となり、愛される直売センターとなるよう努めて行きます。

「いぶきの里」は田んぼに囲まれた環境の良い場所にあります。店舗の隣の田んぼや、近くの畑を使って、地元の子どもたちに農業体験をしてみようなど、イベントの実施も検討しています。ここが地域の拠点となり、愛される直売センターとなるよう努めて行きます。

これから課題は？
午後になると商品が残り少なくなってしまうことが多く、「一日中新鮮な商品が豊富にある直売センター」として認知されるためにも、17名の登録農家をもっと増やすことが必要で、課題でもあります。

目標について教えてください。
オープン（7月29日）から来年3月末までの売り上げ目標は7,200万円。月900万円の目標です。オープンしてまだ数カ月ですがこの調子なら目標は達成できると思います。

DATA

いぶきの里の売場



新鮮な野菜が豊富に並ぶ



加工品。大福や赤飯が大好評



こだわりの逸品コーナー



お盆時期には屋外に花の特設売場が

■お問い合わせ先
JA新あきた
農業ビジョン推進課
TEL.018-832-6652